

大会名 Competition	第24回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-112	Year Month Day Time 2011 年 5 月 5 日 10 : 30
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B										
沼津中央	<table border="1"> <tr><td>18 1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>19 2nd</td><td>19</td></tr> <tr><td>11 3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>7 4th</td><td>13</td></tr> <tr><td colspan="2">OT</td></tr> </table>	18 1st	13	19 2nd	19	11 3rd	16	7 4th	13	OT		新潟商業
18 1st	13											
19 2nd	19											
11 3rd	16											
7 4th	13											
OT												
55 ●		61 ○										

主審:Referee  
久米 克弥 (秋田県)  
副審:Umpire  
水木 順仁 (秋田県)  
テーブル・オフィシャルズ:Table officials  
能代工業高校

No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		反町 駿太	cap	-	-	-	-	0	4	×	黒崎 海斗	CAP	3	1	0	0	1
5		川口 颯		-	-	-	-	0	5	/	笹川 錬也		0	0	0	0	0
6		清水 亮		-	-	-	-	0	6	×	小川 健太		8	0	3	2	2
7	×	鈴木 聖也		10	0	4	2	4	7	×	江部 大樹		2	0	0	2	4
8	×	山口 夏希		4	0	1	2	0	8	/	神田 佑成		9	0	4	1	3
9	/	長坂 卓哉		0	0	0	0	1	9	×	近藤 孝仁		14	0	7	0	3
10	×	石川 知樹		15	1	4	4	5	10	/	小柳 多功		6	0	3	0	0
11	×	小松 京太		15	2	4	1	1	11	×	笹原 一生		6	2	0	0	1
12	/	村上 友哉		0	0	0	0	1	12		伊藤 賢人		-	-	-	-	0
13	/	鈴木 康平		0	0	0	0	2	13	/	大矢 孝太郎		11	0	5	1	0
14	×	望月 孝祐		8	0	3	2	3	14	/	今井 惇司		0	0	0	0	1
15		ソウ シェリフ		-	-	-	-	0	15		藤井 智己		-	-	-	-	0
16		砂川 剣人		-	-	-	-	0	16	/	新沢 亮太		2	0	0	2	0
17	/	岡田 雄三		0	0	0	0	1	17	/	加藤 豪大		0	0	0	0	0
18	/	山口 敏也		3	1	0	0	2	18		渡辺 樹大		-	-	-	-	0
コーチ		杉村 敏英							コーチ		中屋 廣昭						
Aコーチ		駒形 潤治							Aコーチ		丹波 浩之						
合 計				55	4	16	11	20	合 計				61	3	22	8	15

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、沼津中央2-3ゾーン、新潟商マンツーマンでスタート。沼津中央は#10石川の先取点に続き#11小松の3Pなどで3連続ゴールし序盤のペースを握る。沼津中央の2-3ゾーンを攻めあげていた新潟商だが、速攻でゾーンを組まれる前に攻めるなど#6小川のドライブや#10小柳のゴール下で反撃を試みる。18-12で1Q終了。

2Qに入り、新潟商は2年生センター#13大矢を起用し、ゾーンを崩しにかかる。#6小川のスティールからの速攻も決まり、22-21と1点差まで詰め寄る。沼津中央は中盤2年生を主体としたチームで機動力のある攻撃を仕掛けて微差を守る。終了間際、沼津中央#10石川、#18山口の2本の3Pが決まり、前半を37-32と沼津中央リードで折り返す。

3Q、互いにディフェンスが激しく、得点が伸びない展開になるが、沼津中央は#10石川を中心としたオフェンスを展開しリードを保つ。しかし新潟商#8神田のドライブからのシュートが相手のファウルを誘いバスケットカウントとなったところから急展開。フリースローは落としたものの、新潟商はリバウンド、ルーズボールを拾い連続した攻撃を仕掛ける。終了間際、#11笹原のこの日2本目となる3Pが決まり、48-48。ついに同点に追いついた。

4Q、ディフェンスの当たりを強めた新潟商に沼津中央はトラベリングのミスを連発。新潟商#4黒崎の3Pや#8神田のドライブで新潟商がこの試合初めてリードする。残り2分30秒、51-58の新潟商7点リードとなったところで沼津中央はタイムアウトを請求する。しかしエンドラインからの沼津中央のスローインが5秒ヴァイオレーションとなり、攻撃権は新潟商へ。#8神田のドライブに対し、すかさず沼津中央も#11小松が入れ返すが後が続かない。その後の時間をうまく使いきった新潟商が2勝目をあげた。ロースコアながら互いのディフェンスのがんばりが光る好ゲームであった。